

令和3年度

飯綱町教育委員会事務の管理及び
執行状況の点検及び評価の報告書



飯綱町教育委員会

1、趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第 26 条の規定に基づき、教育に関する課題や取り組みの方向性を明らかにし、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検並びに評価（以下「点検・評価」という。）を行います。さらに、教育に関し学識経験を有する者から得た知見と合わせ、報告書を議会に提出し公表します。

2、点検・評価の対象

令和 4 年度の点検・評価は、前年度である令和 3 年度分の事業実績を対象とします。

対象範囲は、地教行法第 23 条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、本教育委員会が所管するすべての事業です。このうち、本教育委員会作成の「令和 3 年度飯綱町教育委員会基本方針」における「方針と目標」の具体的実施事業の主なものを点検・評価の対象としています。

3、点検・評価の方法

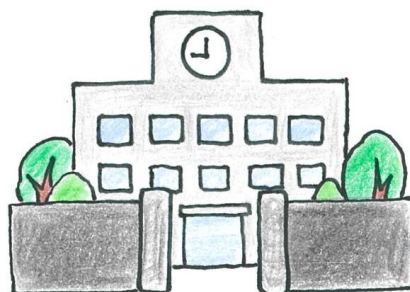
- (1) 令和 3 年度飯綱町教育委員会基本方針に基づき、重点事業として取り組んだ主な事業について、点検及び評価を行いました。
- (2) 教育に関して学識経験等を有する外部者からの意見聴取を行い、その結果を掲載しました。なお、ご意見等いただいた方々は次のとおりです。
 - 飯綱町学校運営協議会委員
 - 子育て世代支援施設運営委員
 - 保育所運営委員
 - 社会教育委員
 - いいづな歴史ふれあい館協議会委員
- (3) 点検・評価の結果については、定例教育委員会において審議しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



《飯綱町の教育委員会基本方針》

方針と目標

方針1 個性を生かし共に学び合う学校教育の推進

目標 生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう

- (1) 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
 - ① 知・徳・体の調和がとれ、生きる力を育成する教育の推進
 - ② 子どもの学びの機会と質の向上を保障
 - ③ 誰にでも気持ちよくあいさつができる子どもの育成
 - ④ 保小連携、小中連携、小学校相互の連携
 - ⑤ 教職員の力量向上と働き方改革
- (2) グローバル化社会への対応
 - ① ICTを活用した学習の推進
 - ② アクティブ・ラーニングの実践
 - ③ 次期学習指導要領への的確な対応
- (3) ふるさとを愛する心が育つ教育の推進
 - ① 体験型学習やキャリア教育の充実
- (4) 学校・家庭・地域の連携と協働の推進
 - ① 地域人材バンクの整備と飯綱町コミュニティスクール
 - ② 健康づくり週間、手づくり弁当の日、ノーメディアデーの推進
 - ③ 家庭学習の手引きを活用

方針2 子育て・子育て環境の充実

目標 豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう

- (1) 子どもが生き生きと育つ環境づくり
 - ① 乳幼児期からの基本的な生活習慣の取得と心身の健康の推進
 - ② 未満児保育・障がい児保育の充実
 - ③ 子ども読書活動による情操教育の推進
 - ④ 安全・安心な放課後児童クラブの運営
 - ⑤ 児童虐待の未然防止と早期の対応
- (2) 楽しく子どもを育てられる環境づくり
 - ① 子育て支援センター事業の充実
 - ② ファミリー・サポート・センター事業の充実
- (3) 子育てをしている女性への支援
 - ① 子育て世代の就労支援
 - ② 病後児保育事業による子育て支援の充実

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

目標 健全な心と体を育てよう

- (1) 多様な活動機会の創出
 - ① スポーツ活動や芸術文化活動の機会の創出
 - ② 地域団体が企画運営するスポーツ・芸術文化活動への支援
 - ③ スポーツ施設の充実
- (2) 文化の保存・継承・活用
 - ① 豊かな農産物や食文化への理解の促進
 - ② 文化財の保存、継承、活用の充実
 - ③ 文化遺産や芸術・文化に触れ、ふるさと愛を育む

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

目標 学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう

(1) 多様な学習機会の創出

- ① 生涯学習の充実
- ② 生涯学習の成果を生かす機会の実現
- ③ 図書館機能の充実

(2) 生涯学習拠点の充実

- ① 地域コミュニティの活性化
- ② 地域学習の充実



4、点検・評価の結果

方針1 個性を生かし共に学び合う学校教育の推進

目標 生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう

(1) 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

① 知・徳・体の調和がとれ、生きる力を育成する教育の推進

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○長野上水内小中連携教育課程研究協議会体育科研究指定校の取り組み 5年2組の担任教諭を授業者に、サッカー型の授業づくりを行った。体育館をコートに、足でも扱いやすいスライド式のボールを使って、動きの判断が易しくなるように人数を減らした教材を工夫し、運動の苦手な子どもたちも、運動の楽しさを味わえるようになることを目指した。	【牟礼小学校】 攻撃側が数的有利な状況を利用して、シュートチャンスを作ることで、積極的に攻め込むアクティブなゲームが展開された。タブレットの映像機能を、ゲーム分析や課題把握場面に利用することができた。 コロナのために、参集開催は中止となったが、自身の研究授業に体育を公開するなど、多くの職員が体育を通して、授業改善に取り組むことができた。
課題	
コロナ禍にあって、子ども同士が密着する運動や心拍数や呼吸が高まる激しい運動が制限されるなかで、子どもたちの体力の向上を図ったり、運動への関わりを増やしたりするための取り組みが求められている。	
【三水小学校】 ○ICTの活用による個の学びの充実 ・ドリルの時間 ○読書の時間（毎週月曜日朝） ・おはなしの会による読み聞かせ ○体づくり ・たてわり体育・持久走大会等	【三水小学校】 ドリルの時間では、ICTを活用して児童自らが自分にあった課題を選択し取り組むことができるようになった。 コロナ感染が拡大し、学年が混在する活動を制限しなくてはならなかったが、休み時間の体育館使用前には手指消毒をするなど、感染予防を行いながら体を動かす活動をできるようにした。
課題	
保護者からの学校評価や児童の生活アンケートからも、運動習慣の定着に課題があることが分かった。コロナ禍ではあるが、感染予防をしながら、子どもたちの体力向上を図ることも大切にしていきたい。	
【飯綱中学校】 ○授業研究の日 生徒が友と関わることで見方や考え方が深まる学習活動を設定した授業を公開した。	【飯綱中学校】 毎回異なる教科で公開授業を行うことで、他の教科の指導上の要点や生徒の学びの違いなどを把握できた。
課題	
参観者が、自身の授業実践における課題を明確にした上で参観することにより、以降の授業改善が一層具体化し、改善の質的向上が図れるようにしていきたい。	

② 子どもの学びの機会と質の向上を保障

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○学校評価、学校生活アンケート 学校教育活動の取組評価として、学期や節目の月毎に保護者や児童にアンケートを行ってきた。保護者、児童、職員の評価と実態などをつかみながら、教育課題や重点的指導の極め出しに役立てている。	【牟礼小学校】 重点指導の柱である「ひびき合う心」「健やかな体」「豊かな学び」に関わる14項目に対して、保護者からは80～90%の割合で高評価を得ることができた。 学校生活アンケートは、担任や職員から見えていなかった児童の不安や悩みなどをつかむ良い手立てとなっている。
課題	
不登校児童への対応については、担任だけでなく、学校として難しさを感じてきた。SC、SSWなどの相談機関の活用や学校以外の居場所利用なども進めてきたが好転にはつながらなかった。学校にこだわらず、社会とのつながりをいかに作っていけるかが課題。	
【三水小学校】 ○各学期ごとの生活アンケートの実施 ○SSWによる個人面談の実施（6年生） ○各関連機関との連携	【三水小学校】 ○昨年度まで年1回の生活アンケートを、本年度は学期1回アンケートを行い、情報を蓄積し、その後の児童の変化を追跡し対応することができた。 ○6年全児童のSSW面談を実施。面談での児童の様子を参考に、卒業に向けての指導に生かすことができた。 ○児童の発達の特長や家庭の様子から、町保健福祉課や児童相談所等とも連携して対応することができた。
課題	
学級担任が1人で児童の対応や支援を行うのではなく、特別支援教育コーディネーターを中心としたチーム支援体制や校内支援会議等を充実させると共に、SC・SSWや各関係機関等とのスムーズな連携を図っていききたい。	
【飯綱中学校】 ○学級集団理解・生徒理解 個々の生徒がもつ集団生活や自己管理における力を、QUの分析結果や情報共有を元に理解し、対策を講じた。	【飯綱中学校】 情報共有を通じて複数教科で個別支援が必要な生徒を把握し、個別支援を継続している。
課題	
複数の教職員が情報共有を繰り返し、対応の方針や具体を適宜改善していくことで、より良い指導を行いたい。	

③ 誰にでも気持ちよくあいさつができる子どもの育成

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○あいさつ運動 児童会による毎朝のあいさつ運動、校長の朝のあいさつによる出迎えや小中連携あいさつ運動などの強化期間を設けるなど、あいさつ向上の取り組みを実施した。	【牟礼小学校】 学校評価やCS運営協議会でも子どもたちの地域でのあいさつについては、毎年課題に挙がっている。度々校長講話などでも取り上げ、あいさつの大切さを伝えたり、職員からのあいさつを根気よく実践したりすること

<p>児童会の実践では「いいづなあいさつ」として、「〇〇さん おはようございます。」の形を広めてきた。</p>	<p>で、校内ではあいさつができる姿が広がってきた。</p>
<p>課題</p>	
<p>地域の方へのあいさつは、子どもたちからの積極的なあいさつが依然として課題である。地域の大人から声がけすることも大事である。</p>	
<p>【三水小学校】 ○児童会を中心としたあいさつ活動</p>	<p>【三水小学校】 児童会を中心に「あいさつ当番」「あいさつ名人」「あいさつ週間」などの活動を通して、あいさつを全校に広げようとしていた。</p>
<p>課題</p>	
<p>地域の方からや保護者による学校評価等では、児童のあいさつへの評価は良好であるが、児童の振り返りでは、課題を感じる評価が多かった。児童会が中心となって活動していることではあるが、形骸化されている部分もあるのかもしれない。引き続き児童会を中心に、新しい取り組みも取り入れるなど工夫しながら、児童も達成感を感じられるあいさつ活動を大切にしていきたい。</p>	
<p>【飯綱中学校】 ○生徒会テーマ「I（アイ） - タイム」 話し合い・伝え合い・認め合いを日常化するため、あいさつ、清掃、歌声等の日常活動に意図をもって取り組んだ。</p>	<p>【飯綱中学校】 全校で取り組んだことで、生徒同士がもつ活動の成果を紹介する通信「Iの輪」の発行、達成感や課題についての意見交流「I - タイム」を開催することができた。</p>
<p>課題</p>	
<p>文化祭では、全校での意見交流の企画を実施し、生徒が自身の気持ちを伝え合うことで、全校が一体感を得られた。学校生活全般に係る意見交流をつうじて、生徒が自身の学校を誇りに思い、学校生活を高める方法を考える機会を今後も創り出したい。</p>	

④ 保小連携、小中連携、小学校相互の連携

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【牟礼小学校】 ○三水小学校との交流（1年、3年） 両校1学年会で両校を訪問して、学校紹介をしたり、学校遊具や施設を使って一緒に遊んだりする交流会を企画。9月に三水小にて、交流会を実施。3学年会では、オンラインで総合的な学習のりんご学習について学習の歩みを発表した。</p>	<p>【牟礼小学校】 同じ学校目標、グランドデザインを有する兄弟学校として、お互いの情報交換や共有、交流活動は大事にしたい。兄弟校であってもそれぞれの生活や文化に違いがあることが見えてくることもおもしろい。</p>
<p>課題</p>	
<p>1年生の交流はコロナ禍のため、牟礼小に招いての第2回（11月）は中止とした。一方、コロナ禍だからこそオンラインで交流ができることも見えてきた。今後は教科学習を一緒に行う学校間共同授業などの可能性も広がりそうである。</p>	
<p>【三水小学校】 ○来入児参観 ・1年生(1月)来入児への学校紹介（お手紙で交流） ・2学年(11月)さみずっ子保育園交流会（来入児を向かえて交流） ○新入生参観 ・6学年 体験入学はコロナ禍で中止とな</p>	<p>【三水小学校】 昨年度よりコロナ禍が続いた状態のため、通常の交流活動は難しかったが、交流範囲を制限したり、感染予防を考慮に入れた活動内容に変更したりした。また来入児の様子を担当職員等が時に触れて参観に行ったり、情報を交換したりするなど関係を密にした。</p>

<p>ったが、保護者会のみ行った。</p> <p>○中学校から派遣授業（英語 2 回）</p>	
課題	
<p>コロナ禍収束が見えてこないが、従来とは違った方法を模索しながら、できる活動を行い、幼保小中との連携をとることを大切にしていきたい。</p>	
<p>【飯綱中学校】</p> <p>○小学校での授業参観</p> <p>年度後半に、来年度新入生受け入れ準備のため、児童理解・授業把握を複数回行った。</p>	<p>【飯綱中学校】</p> <p>参観後、児童の具体を当該学級担任との懇談をとって多角的に把握できた。</p>
課題	
<p>複数名の教員が参観することで、各教科や生活、行事等での配慮すべき課題が様々な場面で明確になった。児童（生徒）の日々の変化に対応するため、情報共有の徹底を継続したい。</p>	

⑤ 教職員の力量向上と働き方改革

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【牟礼小学校】</p> <p>○授業研究の日（授業力向上の取り組み）</p> <p>主体的、対話的で深い学びの具現に向けて、「考えることを楽しむ授業のあり方」「必要感のある ICT の有効活用」の研究テーマのもと、授業担当者全員が授業を公開し、全職員で授業研究会を行った。</p>	<p>【牟礼小学校】</p> <p>毎週月曜日の重点研究会では、公開授業の教材研究や授業構想について話し合いが行われた。中には、隣のクラスで授業を行い、指導や手立ての修正を試みる職員もいた。公開授業後の研究会では、同僚同士が子どもの姿について語り合ったり、指導主事から指導をいただいたりして、授業者だけでなく、全ての職員が学ぶ機会となった。</p>
課題	
<p>コロナ禍にあり、他校に出かける研修の機会が減っている。オンライン研修も工夫され、居ながらにして学べる機会は増えてきているが、生の授業を参観する機会が減ってきているのは残念である。</p>	
<p>【三水小学校】</p> <p>○ICT 活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間での学び合い ・外部講師による研修や相談会 <p>○全校研究（人権教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部人権教育研究協議会に向けて 	<p>【三水小学校】</p> <p>○本年度は特に ICT を日常的に活用していくよう、教職員が取り組むことができた。また、教職員間での実践を学び合う時間を設けることもできた。</p> <p>○北部支会人権協議会への授業提供に向け、「自他のよさを気づき、認め、大切にするための指導のあり方」を目指し、1人1公開授業でお互いの授業を見合い、「めざす子どもの姿」への支援へのあり方を研究した。</p>
課題	
<p>ICT の活用については、引き続き教職員間での学び合いの時間を設けるなど取り組む必要がある。個人差があることを理解しつつ、職員が足並み揃えて推進していくことを大切にしていきたい。</p> <p>全校研究では、引き続き全職員が1つの課題について取り組みながらも、個々の具体的な悩みや実践を深く探求できるよう、小グループでの授業検討なども取り入れて、児童の支援に繋げていきたい。</p>	

【飯綱中学校】 ○メンター研修 指導経験年数の短い教員が、先輩の授業を参観し、指導方法を研鑽する。	【飯綱中学校】 他教科の授業を参観し、その教科独自また全教科共通の指導上の留意点が具体的に理解できた。
課題	
授業後に、参観者同士で気づいた点を話し合うことで、授業構想や生徒の達成度の把握等の重要性を理解することができた。今後は参観で学んだことが自身の授業実践に具体化できているかを確認するため、指導経験年数の短い教員同士を中心に参観し合いたい。	

(2) グローバル化社会への対応

① ICT を活用した学習の推進

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○職員研修と児童のスキルアップドリル 情報教育係や研修係による伝達講習や民間 ICT 支援員による訪問指導相談会を行った。児童が使い慣れるために、ドリルの時間に漢字計算アプリやタイピング練習を取り入れるなど機会を増やした。	【牟礼小学校】 情報通の職員の実践を広め合うなど、職員の ICT 機器の活用スキルをアップしてきた。年度終盤では、教育クラウドを活用した学習やオンラインによる授業への発展の可能性も見えてきた。
課題	
タブレット端末導入初年度であり、使い慣れるということに重点が置かれてきた。文房具として当たり前になることが理想ではあるが、ともすれば ICT 機器の利用ありきの授業展開に陥りがちである。これまでも、これからも、友との関わりやアナログ的な学びの大切さは変わらない。効果的な活用方法を見いだしていくことが肝要である。また、情報機器の活用モラルやネットのセキュリティ問題なども活用を進める上で問題となっている。	
【三水小学校】 ○ICT を日常的に授業の中に取り組む活動 リモート学習に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童が Zoom 機能を 1 人で操作できる ・端末の持ち帰り ・家庭からの Zoom 接続 ○学習発表会の代わりに (健康チェックカードのオンライン化)	【三水小学校】 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での学習の保障として、リモート授業に向けての準備等を行った。また、学級閉鎖時や出席停止児童への対応に ICT を活用した。 ・コロナ感染が拡大し、最後の授業参観日の代わりに端末を持ち帰り、学習のまとめを保護者に見ていただくことができた。
課題	
コロナウイルス感染症の拡大に対応して、可能なかぎりリモート授業を行ったが、端末を前にして授業を行うのは、小学生の段階では集中力が続かなかつたり、精神的に負担だったり疲れしたりした。小学生（低学年・中学年・高学年）という成長年齢に合わせる学習形態を考えることも大切にしたい。 また、自由に端末を扱えるようになってきた児童たちに、情報モラルを含めた ICT 学習の約束等の指導も推進していきたい。	
【飯綱中学校】 ○ICT 職員研修 Google、e ラインズ、ロイロノートを使い、基本的な操作方法を理解した。	【飯綱中学校】 授業、生徒会活動や校外学習、家庭学習等、教職員自身が中心になって指導する場面を想定したことで、今後の利用機会も構想できた。

課題
本校教員、また町内小学校の教員の指導実践を紹介し合うことで、活用方法の構想を深められるような環境を整備したい。

② アクティブ・ラーニングの実践

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○プレゼンテーションソフトや教育クラウドの活用 タブレット上に自身の考えや意見を記し、クラウド上で提出したり、集約したりすることで、お互いの考えを瞬時に共有することができた。	【牟礼小学校】 これまで教師が机間巡視をして、一人ひとりの考えをつかみ、指名計画を立て、発言の機会が与えられた者だけが発信できていたスタイルから、みんなの考えを瞬時に共有できるようになった。学習への参加が促され、能動的な学びにつながった。

課題	
タブレット上に記録するスキルが未熟な子どもたちは、時間がかかったり、うまく表現しきれなかったりすることがある。鉛筆でノートに書き記す方が良い面もある。また、好むと好まざるに関わらず、自分の考えが知られてしまうというマイナス面もある。	
【三水小学校】 ○総合的な学習を中心とした主体的な学習 ICT を活用したアクティブラーニング	【三水小学校】 密になることを避けるため、グループ学習にも制限が必要であったが、修学旅行や社会見学場所を、ICT も活用しながら、児童自らが企画したり探求したりすることができた。

課題	
コロナ禍の中、未だ集団学習に制限はあるが、ICT を活用することで、実際に集まったりしなくても、意見交換したり協働的な学びをすることができることも利用して、共に学び合う子どもの姿を大切に授業づくりをしていきたい。	
【飯綱中学校】 ○授業研究の日 生徒が友と関わることで見方や考え方が深まる学習活動を設定した授業を公開した。	【飯綱中学校】 毎回3教科の授業公開をつうじて、授業改善で全教科に共通する生徒同士の関わりを生み出す要点を明確にできた。またその内容を職員室に掲示し、周知を図った。

課題
全教員が、生徒同士の関わりを生み出す観点に沿った指導実践を紹介したり、意見交換したりする機会をつくることで、全職員の指導力向上を図っていきたい。

③ 次期学習指導要領への的確な対応

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○町費外国語専科加配や町費民間 ALT の配置 5・6年生の英語および3・4年生の外国語活動授業および支援。	【牟礼小学校】 担任がメインティーチャーとして行っていた授業以上に、専門性を生かした言語コミュニケーション活動を展開することができた。ALT によるネイティブな発音や外国の文化に触れることができ、子どもたちも楽しみにしている。

課題
2年度から3年度にかけて ALT が4人替わったことは、専科教員にとって大きなストレスとなったであろう。安定した人材の確保をお願いしたい。

学級担任自身が英語や外国語活動の指導力を向上させようとする意識を高めていきたい。

(3) ふるさとを愛する心が育つ教育の推進

① 体験型学習やキャリア教育の充実

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○わくわく未来塾 地域社会で活躍する方や地域に縁のある著名な方をお迎えして、仕事のやり甲斐や夢や目標をもって努力することの大切さなどを話していただくミニ講演会を8回実施した。	【牟礼小学校】 いろいろな人の紹介や縁で、今年度は東京パラリンピックの金メダリストや北京冬季五輪に出場した小林誠也選手にもきていただくことができた。子どもたちに課したテーマは、「講師の生き方に学ぶ」こと。回を重ねる度に、子どもたちの感想の質が高まってきて、子どもたちの成長が伺えた。
課題 世界で活躍したり、子どもたちのあこがれの職業に就いていたりする方のお話は大変影響力があり、今後も大事にしていきたい。一方、目立たない仕事に携わっている方々にも夢ややり甲斐や誇りがあるはず。例えば保護者のお話を聞くこともあってもよい。	
【三水小学校】 ○ふるさと学習への取り組み 低学年 アップルミュージアムへの見学 りんご栽培体験等 高学年 歴史ふれあい館 (地層見学・関川臨地学習) 赤塩焼き(卒業作品)等	【三水小学校】 「赤塩焼き」については三水小学区にある伝統工芸としての歴史を学び、地元の文化に誇りをもつことができた。もっとたくさんの人たちにも素晴らしさを知ってもらいたいと感じた。
課題 地域にある素材を引き続き大事にし、特に三水地区の「赤塩焼き」については、これからも三水の伝統文化として、保存維持していくことの大切さを児童が感じる活動を行ってきたい。 また、来年度は、年間を通してキャリア教育が計画的に行われるよう、組織運営をしていきたい。	
【飯綱中学校】 ○総合的な学習の時間 防災学習(1年生)、清掃活動(2年生)、いきいきサロン・ふるさと納税返礼金プロジェクト(3年生)	【飯綱中学校】 1年間、または複数年にわたる調査や体験をつうじて、故郷飯綱町を知り、生徒自身ができることを考え、実践した。
課題 地域の方々には様々な場面でご尽力いただき、活動が継続できた。コロナ禍においてもできることを考案し、実践した。規模縮小や実施延期等があっても、生徒の学びの機会を確保していきたい。	

(4) 学校・家庭・地域の連携と協働の推進

① 地域人材バンクの整備と飯綱町コミュニティスクール

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○「だんだりの会」をはじめとする地域学習支援 今年度も5年生の「米づくり」、4年生の	【牟礼小学校】 飯綱町は価値ある地域教材が豊富で熱意ある地域講師の支援体制が充実しており、大変ありがたい。

「オリジナル七味缶づくり」、3年生の「やたら学習」など、多くの学習で地域講師の方にお世話になったり、出前授業をしていただいたりした。	子どもたちも、本物に触れる機会や直接話を聞いたりする機会を通して、興味関心を高め、深く追求しようとする意欲が高まっている。
課題	
コロナ禍にあり、学校にきていただいて子どもたちと直に触れあったり、様子を見ていただいたりする機会が限られてしまったことは残念だ。	
【三水小学校】 ○総合的な学習への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・2年大豆作り ・3年豆腐作り ・5年稲作 	【三水小学校】 主に総合的な学習への支援として、「おらほの学校応援団」の方々にご支援をいただき、専門的・歴史的・伝統的なことを加えてご指導いただくことができた。
課題	
教科書ではなく、子どもたちが暮らす地域に根ざした体験や歴史を学ぶことができるので、コロナ禍での活動の制限はあるものの、このような活動が継続できるよう、記録等引継ぎを行っていききたい。	
【飯綱中学校】 ○特別支援学級での作業学習 町の農家の方々が継続して支援をいただくことで、生徒が畑活動を土起こしから収穫まで実践できた。	【飯綱中学校】 作業に苦手意識のある生徒がいるが、農家の方々に丁寧に支援していただくことで、意欲的に作業に取り組み、達成感を得ることができた。
課題	
支援を通じて生徒個々の特性を理解していただき、その対応の方法は教員自身も参考にさせていただいている。生徒理解向上の観点からも、作業学習の支援を継続願いたい。	

② 健康づくり週間、手づくり弁当の日、ノーメディアデーの推進

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ○お弁当の日 11月に実施。お弁当の日のねらいにそったお弁当の日の取り組みについて、栄養教諭や担当職員が事前指導を十分に行った上で実施した。	【牟礼小学校】 家庭の協力も得て、行うことができた。見栄えやお弁当自慢でなく、家族や食への感謝、栄養のバランスなどと向き合ったお弁当作りができた。
課題	
飯綱町が大事にしている食育の取り組みのひとつとして、担当者、家庭の過度な負担とならないような方法で、継続していききたい。	
【三水小学校】 ○端末を取り入れた「お弁当の日」	【三水小学校】 端末を持ち帰り、作ったお弁当を撮影し、その写真をつかってお弁当の日のまとめをすることができた。
課題	
ICTを児童自らが自由に使えるようになってきているので、様々な場面での利用が可能ではあるが、情報モラルなど、使用するにあたってのルール作りなどが課題となる。また、ゲーム機も含めた情報機器が当たり前の児童たちだからこそ、健康づくり週間やノーメディアデーが意義を持つことにも留意して取り組むことを大事にしていきたい。	

<p>【飯綱中学校】 ○手づくり弁当の日 空の弁当箱に給食の献立を詰め替えたり、生徒自身が作った弁当を持参し食べた。</p>	<p>【飯綱中学校】 生徒は給食を別の容器に詰め替えたり、自分で弁当を実際に作ることで、給食1食分の量、各献立の味付、香り、色彩等を考えた食生活が送れていることを認識した。</p>
課題	
コロナ禍のため、衛生面を配慮することで実施した。実施に無理のない時期を考慮して継続したい。	
③ 家庭学習の手引きの活用	
重点的な取組等とその状況	評価
<p>【牟礼小学校】 ○家庭学習の手引きをガイドラインとした家庭学習習慣づくり 4月当初に学年毎の手引きを配布し、児童、学校、保護者の共通認識のもと、家庭学習習慣づくりを進めている。</p>	<p>【牟礼小学校】 メディア機器の多用などによる学習習慣、生活習慣の乱れも指摘されている。出された宿題はやるが、自主的な学習にはなかなか発展していかない。具体的で、効果的な手立てが打ち出せていないのが現状。</p>
課題	
学習したことの定着を図るドリル的な内容も、自身の課題にそったものを選んでできるようにすることは、タブレットの持ち帰り等で工夫できるのではないか。また、授業の予習的な内容を、クラウド上に提出するなどの方法も工夫できそうである。生活習慣の乱れやネットトラブル等課題も多いが、タブレットの持ち帰りを試行していきたい。	
<p>【三水小学校】 ○学力向上委員会「家庭学習の手引き」</p>	<p>【三水小学校】 学年内で、家庭学習の内容について「家庭学習の手引き」を元に統一を図ったが、実情は学級担任の裁量となってしまうていた。</p>
課題	
教科担任制が本格的実施となった。学級担任の考えに任せるのではなく、「学習の手引き」を基本としながら、学年連学年で共通理解をもって取り組むことを大切にしていきたい。	
<p>【飯綱中学校】 ○教育相談 定期テストで記録する学習計画表を、教員が個別指導し、適宜学習方法の改善を図った。</p>	<p>【飯綱中学校】 学年全体に「生徒のタイプ別おすすめ勉強法」を伝えることで、生徒が自分自身で学習方法を考える機会をつくった。</p>
課題	
学習計画表の記録から達成度や課題を見つめ直すことで、生徒は短期・長期でどんな学習が必要なのかを決めだすことができた。定期テスト準備に関わらず、自分から目標をもって学習計画を立案・実施する力の育成につなげたい。	

方針2 子育て・子育て環境の充実

目標 豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう

(1) 子どもが生き生きと育つ環境づくり

- ① 乳幼児期からの基本的な生活習慣の取得と心身の健康の促進
- ② 未満児保育・障がい児保育の充実
- ③ 子ども読書活動による情操教育の推進
- ④ 安全・安心な放課後児童クラブの運営
- ⑤ 児童虐待の未然防止と早期の対応

重点的な取組等とその状況	評価
<p>①妊婦、乳幼児の教室、健康相談と子育て応援祝い事業（子育て支援係） 妊娠期からの切れ目のない支援のために、各種教室や相談活動を通じて、個々の実情に応じた支援を行った。 また、令和3年度より誕生祝い金を一律20万円とした。</p> <p>②加配保育士等の配置（保育係） 障がいのある子どもが他の子どもたちと一緒に生活を送ることによって、共に成長できるよう加配保育士を配置した。</p> <p>③ブックスタート事業や「メディアを考える日」の実施（生涯学習係） ファースト45冊、セカンド53冊、サード66冊の本の配布や「メディアを考える日」の年3回の実施を行った。また、おはなしの会による本の読み聞かせなどを行った。</p> <p>④関係機関等との連携による虐待等の未然防止と早期発見（子育て支援係） 保健師等による各種訪問・検診・教室等での児童虐待防止の啓発等を行った。また、相談・通報窓口を設け、児童相談所等関係機関と連携して多面的な支援を行う。</p>	<p>①きめ細やかに対応するため、健康管理センターの保健師、栄養士と連携し、本年度より子育て支援センターでの定期健康・栄養相談の回数を増やし実施した。誕生祝い金の増額とともに大変好評であった。</p> <p>②一人ひとりの発達過程や心身の状態を把握するとともに障がいに対する理解を深め、障がいのある子どもが他の子どもたちと一緒に生活を送ることができるよう加配保育士を配置し、共に成長している。</p> <p>③コロナ禍により、おはなしの会の活動は制限されているが、ファースト・セカンド・サードブックの活動やメディアを考える日の実施により、子どもが本を身近に感じ、豊かな読書活動の推進が図られている。</p> <p>④要保護児童対策地域協議会を設け、代表者会議、実務者会議、個別ケース検討会議を行うことにより、適切な支援内容の検討・実施につながっている。</p>
課題	
<p>幼児期の学びや育ちを小学校教育につなげるよう、保・小接続カリキュラムの作成を進め、保・小の連携を強化する必要がある。また、妊娠、出産、子育て期の悩みなどは、小さなSOSをしっかりとキャッチし、より早く適切な支援につなげることが重要である。</p> <p>児童虐待事案については、一旦終結としたケースでも、その後しばらくして再度ケースとしてあがってくる場合もあり、長期的な見守りが必要なケースもある。保育園、小学校、中学校関係者はもとより、警察、児童相談所等とも情報を共有・連携し、見守りや支援を継続的に行っていく必要がある。</p>	

(2) 楽しく子どもを育てられる環境づくり

- ① 子育て支援センター事業の充実
- ② ファミリー・サポート・センター事業の充実

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【子育て支援係】</p> <p>① 子育て世代支援施設の開所 令和2年度に建設を進め、5月10日に子育て支援センター事業、子ども家庭総合拠</p>	<p>【子育て支援係】</p> <p>① 施設の管理運営を円滑に推進するため、飯綱町子育て世代支援施設運営委員会を設置した。施設の管理運営に必要な事項</p>

<p>点、子育て世代包括支援センター機能を併せ持った施設として開所した。施設の愛称も「みつどんのお家」に決定した。コロナ禍により施設の休館や人数制限を行っての初年度の運営となった。</p> <p>②ファミリー・サポート・センター事業</p> <p>施設の開所とともに、提供会員の自宅で託児をすることに不安がある場合は、子育て世代支援施設で行えるようにした。</p>	<p>や施設で行うべき事業の研究、協議を行うとともに、利用者の声を十分聴くことができた。</p> <p>②これまで、提供会員、依頼会員共に自宅で託児をすることに不安を感じる方が多くいたが、施設の開所により子育て世代支援施設で行えるようにしたことで、不安が少し解消された。あわせて、子育て中の方も提供会員になる事を希望され、養成講座を受講いただいた。</p>
<p>課題</p> <p>i ワーク、子育て支援センターの各機能に加え、母子保健機能（産婦検診及び乳幼児健診等）の拠点が1つの施設になったことから、妊娠期から子育て期にわたるワンストップ化を図り、仕事、起業、交流、相談、学習、育児発達などの支援を強化することができた。今後、施設の利用状況を見ながら、合理的な施設の運営管理方法や利用基準、職員配置計画などを整えていきたい。</p> <p>ファミリー・サポート・センター事業は、専用施設となったことから、提供会員の自宅での託児の不安が解消され、さらに子育て中の方も提供会員になる事を希望され、養成講座を受講していただいた。このような互助が広がる対策を広めていきたい。</p>	

（３）子育てをしている女性への支援

- ① 子育て世代の就労支援
- ② 病後児保育事業による子育て支援の充実

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【子育て支援係】</p> <p>①ワークセンター事業</p> <p>女性が安心して子どもを産み育てられるよう、ワークセンター（i ワーク）を拠点に、仕事と育児等の両立に向けた働き方の提案と働く意欲のある子育て世代への支援を行った。</p> <p>③ 病後児保育事業</p> <p>登録は町内外児 12 人の登録があり、3 人で延べ 4 日間の利用があった。</p>	<p>【子育て支援係】</p> <p>①新施設での運営となったが、コロナ禍の影響や1年目ということもあり、模索しながらの運営となった。</p> <p>②コロナウイルス感染予防をとったうえで、希望者の受け入れをした。</p>
<p>課題</p> <p>新しくなった i ワークの機能をより広く発信するとともに、若者、女性の移住促進や少子化の改善に繋げられるよう、従来の事務事業の見直しと利用者のニーズに対応する新たな支援施策を提案していきたい。</p> <p>また、病後児保育事業は設備の維持管理や担当者がいる子育て支援センターと距離があり移動に時間がかかる等管理面で課題がある。よりよい事業の実施に向け、実施場所や内容等を検討していきたい。</p>	

方針 3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

目標 健全な心と体を育てよう

<p>（１）多様な活動機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ活動や芸術文化活動の機会の創出 ② 地域団体が企画運営するスポーツ・芸術文化活動への支援 ③ スポーツ施設の充実

重点的な取組等とその状況	評価
【生涯学習係】 ①公民館活動 公民館活動として各種大会や講座を開催し、スポーツや芸術文化活動を推進してきた。 ②スポーツ協会、文化協会への補助金交付 多くの町民が文化芸術・スポーツに親しむ関連団体に対し、補助金の交付を行った。 ④ 社会体育施設、学校施設の開放 町内の団体や個人が、文化芸術・スポーツ活動に親しむ機会の創出のため、各種施設の開放を行った。	【生涯学習係】 ①コロナ禍により、本年度も本館事業、分館活動が中止、縮小を余儀なくされた。しかし、感染状況をみながら少しずつ対策をとったうえで開催を始めている。 ②コロナ禍により活動が限られるなか、スポーツ教室や文化芸術活動を工夫しながら開催することができた。 ③コロナ禍により町内公共施設の一斉休館を行ったり、学校施設の一般開放をしばらくの間見合わせたりするなど、感染拡大防止に努めながら開放した。
課題	
中学校図書館の開放では、リクエストや予約も増えてきており関心が寄せられている。学習している中高生のほか、雑誌をゆっくり閲覧している人の姿も見受けられる。滞在型を考えると、雑誌の種類も他分類とともに充実させ、利用促進につなげていきたい。	
(2) 文化の保存・継承・活用 ① 豊かな農産物や食文化への理解の促進 ② 文化財の保存、継承、活用の充実 ③ 文化遺産や芸術・文化に触れ、ふるさと愛を育む	
重点的な取組等とその状況	評価
① 食育推進事業（こども保育係）（学校給食係） 小中学校では栄養教諭が、各保育園でも管理栄養士が中心となり、食育の推進を行った。 ②保育園・学校給食の地産地消（学校給食係）（こども保育係） 例年の飯綱町産食材を活用した地産地消に加え、本年度は有機農法を実践している農園から試験的に野菜を仕入れ給食で提供した。 ② 特別展での文化財の公開（生涯学習係） 歴史ふれあい館特別展「飯綱町の文化財」で、町内所在の国・県・町指定文化財全33件を網羅して紹介した。そのうち、町所有3件、民間所有9件の有形文化財を出品公開することができた。	①年齢に応じた内容でよりよい朝食をとる方法や、なりたい自分のための一日の献立と一緒に考えたりして子どもたちからも好評だった。また、「お弁当の日」の実施は事前の学習の効果もあり、キャラ弁など見栄えにだけに走る例はほとんど見られなかった。 ②有機野菜については、天候不順から急遽納入ができなくなり、食材の確保に追われる事態も起こり、課題が残った。 ③特別展に合わせ、特別記念講演会、連続文化財講座を開催し、文化財の紹介や町の成り立ちなどの講演、指定文化財の見学など、年間を通じ開催した。多くの参加者があり、大変好評であった。
課題	
地産地消では、多くの地元食材を使って地産地消を進めていきたいと考えているが、調理場で必要とする規格を満たす地元食材はまだまだ限られている。これからも、供給者である農家等と推進に向けて調整を進めていきたい。また、本年度はじめて試験的に有機野菜も導入した。まだまだ課題は多くあるが、少しずつ改善しながら導入を進めていきたい。	

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

目標 学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう

(1) 多様な学習機会の創出

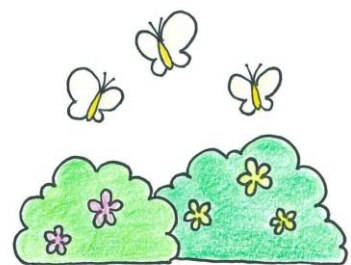
- ① 生涯学習の充実
- ② 生涯学習の成果を生かす機会の実現
- ③ 図書館機能の充実

重点的な取組等とその状況	評価
【生涯学習係】 ①いいづな大学、いいづな教室の開催 生涯、活躍を続けるアクティブシニアの養成を目指し開催した。 ②コロナ禍による発表の場の制限 いいづな教室で学んだことを舞台や展示発表の場を設け、受講生の学習意欲を高めている。また、各種団体で練習した成果を、大会等に参加することにより学びの成果として発揮している。 ③インターネット蔵書検索WebOPAC^{ウェブオパック}の導入と協働電子図書館 広い世代に公民館図書に関心を高めてもらえるよう、インターネットで蔵書検索ができるシステムを導入した。また、市町村と県により進めている協働電子図書館の計画に参画した。	【生涯学習係】 ①コロナ禍により、開催回数・開催時間・定員数を制限し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努め実施した。 ②コロナ禍により制限されることが多くあったが、徐々に学習の成果を生かす機会が戻りつつある。 ③システムの導入とともに広く活用が図られるよう情報発信を積極的に行った。また、県立図書館が主体となり県下全市町村の参加を目指し発足した協働電子図書館の準備会に参画し、準備を進めている。
課題	
電子図書の普及とともに、県が主体となって進める協働電子図書館の設置が進められる中、公民館図書室と中学校図書館の開放のあり方を十分検討し、今後の運営を考えていきたい。	

(2) 生涯学習拠点の充実

- ① 地域コミュニティの活性化
- ② 地域学習の充実

重点的な取組等とその状況	評価
【生涯学習係】 ①公民館活動の充実 本年度もコロナ禍により、町民球技大会や運動会などの本館事業を始め、分館活動も自粛を余儀なくされた。 ②出前講座の実施 地区の学習会や研修会など、学芸員などによる出前講座は大変好評だが、本年度も地区での活動自粛により、地域に出向いての学習はできなかった。	【生涯学習係】 ①地域のコミュニティ力の低下が懸念される中、公民館活動はその活性化の一助を担う大きな役割がある。ここ3年、自然災害やコロナ禍により事業の多くが中止や縮小となっており残念だ。 ②コロナ禍により要望はなかったが、例年大変好評となっているので、新たなメニューの検討とともに、地域での学習に役立てられるよう継続して実施していきたい。
課題	
コロナ禍により自粛傾向が続いているが、徐々に新しい生活スタイルにより活動が再開しつつある。創意と工夫により地域の活性化のため、生涯学習の充実を図っていきたい。	



方針	<p>Ⅰ個性を生かし共に学び合う学校教育の推進</p>
	<p>《小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内ではあいさつが広がっているようだが、地域の皆さんとのあいさつも大事にしてほしい。子どもたちから積極的に声を掛けることは難しいので、大人の方から積極的にあいさつをすることが大事だ。 ・小学校で自学自習の力をつけていくうえで、保育園で行われている「遊び」は小学校では「学び」なので、どのように学習意欲へと学校でつなげていくか、保育園と小学校の連携を深めていく必要がある。 ・タブレット端末を活用した学習が本格化している。教職員も慣れるまでが大変だと思われるので、独自の研修を積極的に行うなど自己研鑽を積んでほしい。 ・児童のタブレット端末の操作においてまだまだ個人差があるようだ。学習支援員等も加わって、個別に対応する必要がある。 ・児童数が減少する中、タブレット端末の活用は、個別にじっくり学習できるチャンスと捉え積極的に進めて欲しい。この時期から ICT 学習を積み重ねていくことは意義深いこと。 ・各家庭へ持ち帰ってのタブレット端末の活用では、家庭によって環境が整っていない家庭もあるようだ。個々の支援が必要である。 ・ICT を活用した学習が本格的になってきているが、情報モラルやネットセキュリティなどの学習も並行して行っていく必要がある。 ・子どもたちには農業体験を味わってほしい。総合学習の時間を中心に、りんごや米作りなどを行っているが、大事にしてほしい。 ・コロナ禍でバーチャルでの体験が目立つようになっている。しかし、子どもたちには実体験を伴う活動をしてほしい。自然に恵まれたこの町の米作りやりんごづくり等に触れる体験をしてほしい。 ・小学校高学年で教科担任制を始めたが、成果や課題を明らかにして今後に生かしてほしい。連学年で協力することになり、お互いの情報交換やチーム力の向上にもつながる。 ・コロナ禍以前の生活を取り戻すことは難しいが、学校では工夫して以前のような活動に近づけようと取り組んでいる姿がうかがえる。 <p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校目標にもある「自己肯定感」を高めることは重要。授業の中で「〇〇さんの言ったことは伝わったかな」という教師の問いかけがあり、生徒同士の関わりを大切に考えている場面だ。授業研究会を通して授業づくりを深めていくことが大切。 ・コロナ禍で、あらゆる場面でコミュニケーションが不足している。子どもたちもコミュニケーションを求めている。大人が相談相手になってやることも大切。 ・子どもたちに考える時間を与えている。考える楽しみがあることで学習への前向きさにつながる。 ・相談活動に関わっているが、コロナ禍になって家族の関係に関わる相談が増えている。学校でも、友達通し、教師との関係だけでなく、家庭内の状況把握も必要であ

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別に違和感がある、登校しぶり、虐待等については、本当に信頼できるようにならないと相談が進まない。地域の中で見届けていく相談システム（窓口）が必要。教育相談が学習上の相談と同じように心を開いて行われるような環境、仕組みづくりが必要。
--	---

方針	2 子育て・子育て環境の充実
	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センター事業は利用しづらい制度と感じている子育て世代の声がある。制度の周知とともに、新設された施設の有効活用も望む。 ・子育て中の世帯では、少しでも自分の時間が持てるような環境づくり、協力体制、頼れる場所があることを望んでいる。子育て世代支援施設の運用がスタートし、ハード面の整備は済んだ。これからは、この施設を拠点にソフト面の充実が必要。 ・子育て世代支援施設の土・日曜日の開所については、当面単発のイベント等でも良いと思う。イベントは両親で来てもらう機会となるような内容が良い。 ・県立大学との連携は、学生も施設に定期的に来ているので、子どもと親が距離をおける良さがある。在宅で子育てをしていると、子どもとずっと一緒にいるので、離れたところから子どもを見る時間も必要で、大学との連携により学生が来ることは継続していくことが必要。また、保育園との連携も考えるとよい。 ・子育てはとにかく母親が担っていて、父親はお手伝いという感覚になりがち。手伝うという意識を変えていかなければならないが、そういった意味でも支援施設に父親に来ていただく施策が大事。

方針	3 スポーツ・芸術・文化活動の充実
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、各種スポーツ団体の活動も自粛が続いた。町の各種大会や講座等も同様である。致し方ないことではあるが、工夫を凝らして学びの場、コミュニティの場を提供して行ってほしい。 ・歴史ふれあい館のリニューアル構想が進んでいる。教育と館の活動が連動してくると、リニューアルに際しても住民参加型の活動につながっていく。親子で体験することもとても大事で、体験をリニューアルにどのように組み入れていくかがとても重要なポイントになる。 ・郷土料理を学ぶ活動から、町の食の歴史を知りたいという声があった。ぜひ歴史ふれあい館の事業や特別展につながると良い。子どもに限らず、町の食文化を知り、後世に伝えていくことは、ふるさと愛を育む一助になる。 ・保育園からの食育が学校でも生きており、学校では子どもたちが食に興味を持っている。また、給食の楽しさも広がっている。 ・保育園・学校給食では積極的に地産地消を推進している。また、有機野菜の試験導入も行われており、今後も一層の推進を望む。

方針	4 自ら学び、共に学び、自己を高める
	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI や DX 化の中、子どもも大人も自然から学ぶことはデジタルからは学べない。コロナ禍ではあるが、新しい生活スタイルにより生涯学習の充実を図っていただきたい。 ・ 協働電子図書館の設置が進められる中、電子図書も今の時代には必要なものである。 ・ 子どもたちの読み聞かせも継続し、本の魅力を積極的に伝えていただきたい。また、公民館図書室や中学校図書館の利用の促進とあわせ蔵書等の内容を充実させ、だれもが利用しやすい図書運営を進めていただきたい。

